

協議を通して見いだした改善策

視点1 感覚運動遊びを通して、運動に興味・関心をもって取り組むために（すすんで）

- 感覚運動遊びの動きを使ってアドバイスや指導をする。
- 運動のポイントをつかむ→高める活動をセットで行う。
- 基本の技中心のグループでは、4つの動物の動きを全員で一通りさせてから子供に選択させる。
- 感覚運動遊びに、動物歩きの動きも取り入れる。

たちばな分科会の授業づくりの意図を踏まえて、みんなで考えた「研究主題に迫るよりよい授業」のための「改善案」です。この中から、取捨選択して、今回の授業を改善していきます。

視点2 課題の解決に向けて、グループ活動を活性化するために（みんなで）

- 他の子の動きをあまり見ていない子供が多いグループでは、「トン・クル・ピタ」の掛け声をグループのみんなで言う。
- アドバイスをする際に「できていない所」よりも「できている所」に着目させる。
- アドバイスをする際に、課題解決に向けた視点以外にも、見ていた感想を自由に伝えられるようにする。
- 「トン・クル・ピタ」などの合言葉を使って短い言葉でアドバイスをし合い、グループでの活動時間を増やす。
- あまり得意ではない子供は、友達の活動を参考にすることやアドバイスをすることが難しいため、見るポイントを1つずつに絞り、一緒に確認をする。
- 感覚運動中心のグループは、マットの下に踏み切り板を入れて回る場などを用意し、感覚の楽しさを味わえるようにする。

視点3 活動の楽しさを知り、すすんで運動に取り組むために（たのしんで）

- めあてを「自分の『できる』を増やそう」に設定する。
- グループごとにめあてを設定する。
- グループタイムの前にチャレンジタイムを行う。
- 感覚運動中心のグループがもっと楽しさを味わえるよう、マットを使わず友達と動物歩きをしてから、転がる動きにつなげる。
- 感覚運動中心のグループが、マットを長めに敷いたところで前転をし、その後動物歩きをするなど、活動に緩急をつけて友達の活動を見る時間を設ける。
- 基本の技中心のグループでは、活動子供に選ばせるのではなく前時までの実態を踏まえた上で教員が活動を決め、技能を高める。